

- 1 件 名 第4回アリーナ整備検討会議
2 日 時 令和6年12月27日(金) 13:00~14:30
3 場 所 本庁舎3階 第3会議室
4 会議内容
-

【13時 開会】

【司会】

定刻となりましたので、ただ今から第4回アリーナ整備検討会議を開催いたします。
みなさま本日は、ご多忙のところ、多数の方々にご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。
本日の司会を担当いたします、岡山市市民生活局
スポーツ文化部長の浅沼と申します。
よろしくお願いいたします。

なお、本日は、

岡山商工会議所 スマート・ベニュー構想 実現委員会 延原委員長の代理として 森 副会頭、
岡山経済同友会 地域振興委員会 野田委員長 の代理として、岡崎副委員長、株式会社ファジアーノ岡山
スポーツクラブ 北川 代表取締役会長の代理として、渡邊 運営部・広報部 部長 が出席されています。

また、日本政策投資銀行 岡山事務所 長澤所長、
岡山県スポーツ協会 松井専務理事 はご欠席です。

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

- ①本日の次第
 - ②アリーナ整備検討会議のメンバー表
 - ③配席表
 - ④資料1 アリーナ整備事業における概算事業費について
資料2 アリーナ整備事業における事業採算性について
資料3 アリーナ整備に関するアンケートについて
- 以上となっております。すべての資料がございますでしょうか。

(確認完了)

それでは、開会にあたり、大森岡山市長からごあいさつを申し上げます。

【大森座長あいさつ】

【司会】

ありがとうございました。
それでは続きまして副座長の岡山商工会議所 松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。

松田会頭、お願いいたします。

【松田副座長あいさつ】

【司会】

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

それでは大森市長、議事の進行をお願いします。

【大森座長】

それでは、議事の進行を務めさせていただきます。座ったまま進行をさせていただきます。

お手元の資料の次第に沿いまして、進行してまいります。

それでは、「(1)概算事業費について」「(2)事業採算性について」を一括して事務局から説明願います。

【事務局】

(1)概算事業費について

(2)事業採算性について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。

概算事業費と、事業採算性について説明がありました。

概算事業費については275から80億という数字が出たところであります。また、事業採算性については、貸館だけだと、少し赤字が出るかなという線が出ておりますけれども、ネーミングライツ、そして、自主事業等々をやっていけば十分に採算がとれる数字でもございます。

我々としては、まずは、建設費の方なんですけれども、もう財源の確保見込みをちょっとご覧いただきたいと思っております。

国庫補助金というのは、これから国と実際には交渉してやっていくことになってきます。

これについても、事前にいろんな形で接触はしているところであり、我々としては少しでも有利な財源を得るようにしていきたいと思っております。

その他3番目、4番目の岡山市の負担でありますが、これがどれだけの負担になってくるかは、やはり市民の皆さん方にお示しをしないと、これから進んでいかないうちに私は思っているところであります。

そのためにも、この寄付金、企業版ふるさと納税を含むと書いておりますけれども、経済界として、これまでの経緯を踏まえて、どの程度の負担を考えておられるのか、少しお考えを示していただきたいと思っております。

まず会頭よろしいでしょうか。

【松田副座長】

はい、ただいま市長から寄付金についての話がございました。

要望として受けとめておりますけれども、私どもの他の商工会では、まだ議員からの合意をいただいているわけがございませんので、今の段階ではっきりした数字を申し上げることがなかなかできないという状態でございます。

また、運営費についても、採算が合うような仕組みをということでお願いをして、7,000、7,500 席という収容者数を出していただいて、その結果こういった運営費ということになっておるわけでありましてけれども、実は、商工会議所は民間の団体として主体的に今までこの検討には関わってきたわけですがけれども、運営に関わる主体ではないわけですので、従って、運営に関わる主体としての企業、あるいは団体、会社はどうかかわりませんが、そういった主体性があるところを見つけてきて、この運営母体になるべく業者を選定するというのを早くやっていかなきゃいけないかなというふうに、これ単独でやるわけでもなくて、もちろん市が決められるわけですがけれども、私ども民間の団体としても、そういった候補者先を探していこうと考えております。

総じて言いますと、今のところ負担金額がいくらということはちょっと示されない状況でございます。

ただ、岡山市から要請があるということは受けとめておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

【大森座長】

はい。ありがとうございます。

皆さんご承知のように、市の方は各年度ごとの予算で動いていくことになります。

我々としてこのアリーナ整備について、次のステップをどうするかっていうのは、来年度の予算で決めることになります。

従って、予算の時期までに、ぜひ具体的にどの程度の負担が可能なのかを教えていただきたいと思っております。

具体的な時期としては、1 月の中旬ぐらいが来年度予算のリミットになると思いますので、その頃までに、経済界が考えられている負担額を整理していただければと思います。

この点について、何かご質問、経済界とのやりとりだけじゃなくて、概算事業費そして事業採算性について、何か質問等々がございましたらよろしく願います。

【三村氏】

ご説明ありがとうございます。

岡山大学の三村でございます。

実際のこの収支、冒頭やはり建築費っていうのは、改めてコロナ災禍の前から比べると、ずいぶん上昇しているなということを改めて感じたところでございます。

建築費の規模もこういった形を前提としての試算でしょうが、この資料はアリーナ施設単独での話であり、やはり市民の皆様にご理解を頂くためには、北長瀬エリアや岡山市全体での経済効果の議論や、アリーナが完成した場合、ファジアーノ岡山も J1 に昇格しましたし、こうしたシナジー効果をオール岡山で考えながら、アリーナ効果がどうなのかという議論をする必要がある点を再三申し上げてきました。第 3 回会議でも岡大で学会の全国大会があり、市内に宿がなくて、市外のビジネスホテルしか取れなかった方が結構いらしたお話を申し上げました。この 1 万人規模と言う箱の中だけでの閉じた建設費と収支計算です

と、黒字化は厳しいものがあると思料します。

これを合わせてですけど、やはり市民の皆さんにご活用いただくという話も、この中で想定して出てくるという話もあると思いますので、岡山市民とか岡山県民、内外から来る皆様方にとってこのアリーナ、どういう効果を出していくのか。

事業意識は大切ですが、もう一方で防災の話もあります。この前、たまたま田口議長とお会いする機会がありました。非公式ですが、スポーツ振興をテーマとして誠に熱心に議論が進んでいるのですが、やはり北長瀬エリアの開発となりますと、危機管理部門や都市整備局さんですとか、さらに経済効果の更なる検証となりますと経済局さんとか、市が持つ多様な専門家が集まり様々な形で議論を行い、総合的に新アリーナが、この岡山市の将来にとって重要なんだといった議論、すなわち、もう一段、幅広い議論を進めていく必要がある段階に到達した点で合意しました。本来、プロスポーツや収入面でのコンサートや展示会などが重要となりますが、それを軸に幅広い議論を行い市民の皆さんにご理解をいただく流れを醸成することが重要じゃないかと思料いたします。

それは後ろの資料3のアンケートにもやっぱり出ていると拝見させていただいておりました。早口でございますが以上でございます。

【大森座長】

ありがとうございました。

経済効果については、もう数字が出てますんで、そこはすぐに対応できる場所だと思います。なぜか2種類ありますけどね。

他にご意見ありませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、その他ですが、事務局から何かありますか。

【事務局】

(3)その他について 説明

【大森座長】

ありがとうございました。

予定していた議題は以上ですけれども、せっかくお集まりいただいておりますので、それぞれの方から、このアリーナに対して、何でも結構でございますので、ご指摘をいただければと思います。

その点は、田口議長から、三村さんという形にさせていただきたいと思います。

【田口顧問】

皆さん大変ご苦労さまでございます。

年の瀬が迫って、大変お忙しいところお集まりいただきまして、まず本当にご苦労様です。

ありがとうございます。

2点ありまして、今さっきのアンケート結果の中で、1分間に多数深夜、ドドッと出てきた話。

誰かわからないし、それが故意なのかどうなのかわからないけど、そういう不自然なアンケートをやるとするのは、もしこれが故意であるならば、許されざるべき行為だと思います。

それぞれの市民が、皆さんがいい悪い、それを議論しながら議会でも真摯に議論しています。

それを何らかの意図の関係で、そうした行為を行うこと、それもシステムを使ってやること、これは絶対

に許されない行為であります。

そうした意味でも、このお集まりの皆さんにはそれぞれ共通の認識を持つ、こうした行為に対して断固反対というか、きつく抗議をしたい。

もしこれが意図的であるならば、これは実際に証拠もないんで何も言えないんだけど、ただ1分間の間にドドドッと深夜の間に 2,000 回以上の回答が来るというのはありえないことでありますので、これは偶然なのかもしれませんが、市民のためにどうあるべきか、みんなで一生懸命、喧々諤々議論していく中でこのように行ったというのは、非常に不愉快でありますし、意図があるならば、決して断じてやってはいけない、許されざる行為だということをまず、私の方からお話をさせていただきます。

それから2番目として、これはトップチームにとっては大変厳しい意見かもしれません。

アリーナというのはまず最初に、プロリーグSVリーグも含めてそれぞれの改革があるから、プロのチームを何とか応援しようということで、このアリーナ計画がセットされました。

以前、ファジアーノさんが、練習場を作ってくれということで市民から5万人から6万人ですかね、いわゆる案、要望書が来て、市民の税金を使って、要するに練習場を政田に作ります、のときに、今の木村オーナー、当時の木村社長に対して厳しく言ったんですけど、市民の税金を使う以上、結果を残してくれ。それがプロだと。それが機運の醸成に繋がるということ、私がかかなり厳しい口調で、当時議会運営委員長でしたので、宮武議長のもとでかなり厳しいこと言わせていただきました。

そういうことがあったのかどうなのか、それも含めて、今回、J1へ昇格したということで、シーガルズさん含めてトップリーグのプロの皆さんは、市民の税金を使って、いわゆるアリーナを作る、ということありますので、市民がそれぞれ期待をしているということは、プロというのはやはり結果を出して勝つ、負けるために試合をする人なんか絶対いない。皆、勝利を掴んで優勝を目指して頑張っているのは当たり前の話ですけど、厳しい練習をしながらそれに向かっていくんだけど、プロというのはあくまでも、過程も大事ですけど、やはり結果が、僕はすべてだと思うんですね。

だからそういう意味でも、プロのトップリーグの皆さんにおかれましては、この市民の機運の醸成、これはやはりそれぞれが努力をしていただいて、しっかり勝利を掴んで、よし、シーガルズを何とか押し上げるぞ、トライフープを何とか押し上げるぞと、それがそのままその気運の醸成がアリーナの建築に繋がる、僕はそう言っても過言ではないと思いますんで、それはもう大変、私は厳しい意見かもしれませんが、その辺十分お汲み取りいただいて、それぞれのプロチームの皆さんが、そうした我々、アリーナを、市民の皆さんの税金を使って、そしてそれぞれの経済界の寄付のお金を使って、我々がそこで、会場でできるんだという意図をお汲み取りいただいた上で、ぜひ、プロとして結果を残して、勝利に向けて頑張っていただければと思います。大変、厳しい意見かもしれませんが何卒よろしく願います。

どうもありがとうございます。

【大森座長】

ありがとうございました。では三村さんお願いします。

【三村氏】

はい。

前日も申し上げましたんですけど、日本全体がなかなか人口減少したという話もありますし、そういった中でスポーツを中心として、このアリーナとかスタジアムっていうのは人を呼び込む、数が減っても人が回転していけばお金落ちるっていう点では、大きな経済効果を生み出す仕組みの要だというふうに思ってお

ります。

そのためには財源は、やはり官主導でお願いするとしても自主事業ではないですが、スポーツチームを核として民主導で、どこまで経済効果を生み出せるか、全力で具体策を立案、そしてまさにワクワク感、賑わいを創出することが重要なのです。もちろん、大学としても活用企画や運用面では学生、DX のような研究面では研究者が中心となり覚悟をもって実施する組織体制を考えなきゃいけないと思っています。つまり、いまこそ、オール岡山が 1 つになれる大きなチャンスだと思っています。

産官学民が力を合わせて、このアリーナを突破口として、私たちの岡山が、いつまでも元気でありつづけるための「元気印の源」になる具体策を検討する段階です。そして市長の言われる通り、いよいよ具体的なアクションプランに合わせて、建設コストの負担のあり方とその解決策に向けて、前向きに取り組んで頂ければと思料いたします。

以上でございます。

【大森座長】

それでは三浦さんお願いします。

【三浦氏】

はい。

先ほどトップチームについての、勝たなければという話がありますが、スポーツは市民の皆さんに非常に感動を与えるんですけど、実はやる方は、残酷な場面がたくさんあるんですね。それを理解してやるのがトップチームの選手であるということなので、本当に気を引き締めていかないとなかなか勝利を得られないというところがありますから、そこは周りに期待をするというよりも、チーム内で引き締めてですね、勝ちを取りにいかなきゃいけないんじゃないかなと思います。

今年は幸い、やはりファジアーノが J1 に上がったということが岡山にとってすごく大きいんじゃないかと思えますね。

おそらくサッカーをあまりご存じない方でも、J1 に上がって、相手チームの何千人の応援団が来るというような、景色が変わるぞというような話をしている、今回のこのアリーナ整備においても、そういう意味では、これを作ることによって皆さんの見る景色がどう変わるかというようなことが少し見えてきたんじゃないかなという気はして、本当にファジアーノのがんばりには敬意を表すわけなんですけれども、一方で、最初に少しお話ししたと思うんですけど、コンサートを呼び込まなきゃいけないということはすごく大きな問題であるということなんで、興行できる会社が、おそらく岡山でそう多くないのかもしれませんが、県外からのそういう会社と県内の企業とコンソーシアムを作って運営をしていくというようなことが、次の市民に対しての説明をする、ひとつの材料になるんじゃないかなというふうに思います。

私の立場からは、やはり何回も言いますが、こういった環境が地方にも整ってきて、地方の子供たちもトップの試合が目の前で見られる。そういう場になってくれたら、とてもありがたいなと思います。

以上です。

【大森座長】

それでは林さんお願いします。

【林氏】

理科大学の林です。私から3つほどお話をしたいと思います。

まず、本日事業費の説明について話がありました。

事業費の総額については、説明はわかりましたということなんですけれども、考え方として、これ、行政からの支出ということで税金だと思えます。もう1つは商工会議所もご協力いただいて、で、国からということなんですけれども、税金からどう支出してということでもあるんですが、私の感覚としては、これは、ある意味投資ではないかと思えます。

つまり、これからどう経済的価値と社会的価値を回収していけるかという、ある程度プランを立て、例えば10年以内に、どうその経済的価値と社会的活動を回収して、毎年のトントンの話はわかったんだけど、280億も、これ民設民営だったら回収できないんで、倒産なわけです。それをきちっと10年計画、5年計画、それを示してどう経済的価値と社会的価値を回収するかということ、指標立てて、市民に説明するということが、市民の理解を得るためには必要なんじゃないかと。

先般、日本政策投資銀行から、大阪の万博のスタジアムですけれども、その社会的価値を、定量的に評価して、それが経済的価値みたいな、数字的にどう社会的に価値があるものかということ、説明できる指標をお作りになられたとおっしゃっていました。

そういったものを活用して、市民にこれだけの280億かかるお金だとしても回収できるんだという説明が必要になるんじゃないかと思えます。これ企業を紹介、協力してくださるということなんですけれども、これは別にボランティアとか寄附ではないわけです。企業さんも、身銭を切られて、投資という感覚でご出資なされるというぐらいの気持ちでやっていただかないと、各企業さん、非常に厳しい中での持ち出しになるかと思えますので、ぜひそういう意味でも、私が申し上げて釈迦に説法で恐縮ですけれどもぜひその点、慎重に考えていく必要があるんじゃないかということです。

2つ目と1つ目も同じような話でしたので、今の話と最後ですけれども、先ほど議長もおっしゃいましたが、コンテンツホルダーは、各トップスポーツチームであるわけなんですけれども、これが施設を任されて、これだけの規模に集客していけるかという、ある程度見込みがないと、この計画が、倒れてしまうわけですね。回収できない、借用料払えないわけですから。

そういう意味で、やはりコンテンツホルダーのマネジメント力というのが、ぜひ、議長は先ほど強さということでおっしゃってくださいましたけど、私スポーツを研究する立場としては、その各コンテンツホルダーの活動が市民にどのような社会的な効果を提供できるのか、課題解決であるとか、福祉であるとか、子供たちの夢であるとかそういったものも、ぜひ見える化するような、定量ではなくて結構だと思うんですが、見える化しながら、お示しながら、これが実現していくんだということを積極的にご説明いただければありがたいな。そこには大学としても、ぜひ協力させていただきたいと思えますので、よろしくお願ひしたいと思えます。

以上です。

【大森座長】

それでは高田さんお願いします。

【高田氏】

岡山シーガルズの高田です。まずチームの勝負のことなので、勝利を目指してやりたいと思えます。

その中でこの前天皇杯皇后杯では第3位になれたことは、大きな1つ自信になったので、明日からまた試合に何か活かしてくれるんじゃないかなと思えます。

あとアリーナに関しては本当に皆さんの関心の高さが、もう本当にこの1ヶ月、関心の高さを感じています。

私たちSVリーグのライセンスもそうですし、岡山市内の子供たちの未来にとってもそうですし、絶対なくてはならないものだと思って、これから経済界の皆様とも相談しながら、1つ1つ解決に向けて、取り組んでいきたいと思います。

引き続きよろしく申し上げます。

【大森座長】

はい、ありがとうございました。それでは中島さんお願いします。

【中島氏】

はい。トライフープの中島です。

皆さんがおっしゃられている通り、やはり夢の、わくわくできるアリーナというものにふさわしいチームにならないといけないかなと。そのためには、やはり人気と、実力と、両方を示すことが僕らにできる最善のことであると思うので、新アリーナができるまでには、それをしっかりと、皆様に示せるように、しっかりとチームを運営していきたいなと思います。本当にそれに尽きるかなと思うので。尽力していきたいと思います。

私からは以上です。

【大森座長】

はい、では羽場さんお願いします。

【羽場氏】

岡山リベッツの羽場です。

今回、アリーナのお話、ここまで進んできて、改めて、作って10年後とか、15年後にあのとき作って本当によかったなと思えるような形になれたらいいなと思う一方で、やはりプロスポーツチームというのは勝たなければいけない、というのがありますので、我々岡山リベッツとしても、岡山初のプロリーグ制覇というのを早めに成し遂げて、そして今Tリーグの方でも、いわゆるプレーオフ、いわゆる決勝戦というのを、ホームチーム側でできないかという提案を委員の方にさせていただいております。

また、今、水面下でワールドクラブチームカップ、世界の卓球のプロスポーツチーム同士が世界一を争うような大会を日本で開催できないか、というような話をしています。

それをぜひ今回新しくできるアリーナでやってみるといような形で、この岡山全体を盛り上げていけたらなと思って、我々チームとしても頑張っていきますので、よろしくお願いいたします。

【大森座長】

それでは渡邊さんお願いします。

【渡邊氏】

はい。ファジアーノ岡山の渡邊でございます。本日は北川に代わりまして代理出席させていただいております。よろしくお願いいたします。

まずは先ほどからファジアーノの名前を出していただきましたが、皆様方のサポートのおかげもありまして何とか来期、新たなステージで活動できることになりました。ありがとうございました。

その中で、先ほど議長からお話が出ておりました、当時の政田練習場、岡山市さんの方で整備していただいて、我々活動ができていると思っております。

そのような過去もございますが、やはりチーム強化にとって設備というものが大事だということは我々、一番身をもって、わかっている団体ではないかなと思います。

今回このアリーナ検討会議ということで、アリーナの建設について検討されているわけですが、こちらとしても、トップチームの成績を上げていくにあたっては非常に大事なものになるかなと、思っております。

県民市民の方々が、やはり岡山で輝くチームということを大事に思っていただけとすると、こういった議論というのは必ず出てくると思いますし、岡山の将来にとって非常に有意義な検討の時間になるのではないかなと我々も思っておりますので、ぜひこの後も建設的な議論ができるといいのかなと、クラブとしても感じているところでございます。

あとコンテンツホルダーとしてのクラブの責任ということも、先ほどから各チームの皆さんおっしゃられています、チームがあることで地域にどういったことが示せるのかということも、クラブ側の立場として、引き続き考えていかないといけないなと強く思っております。

本日はありがとうございます。

【大森座長】

はい。では岩田さん。

【岩田氏】

失礼します。市民生活局長をしています岩田です。

今回、規模感と事業費を示させていただきました。かなり簡単な数字ではないというのは皆さん、お感じになられておりますが、これからいろんな検討をしていかないとイケませんので、我々事務局側としても、実現に向けてしっかり整理をしていかないとイケないなというところでございます。

あと、アリーナのアンケートの結果で、まだこのアリーナ整備自体知らないという方もアンケート結果にありますし、期待しないという中でも、費用面が心配だとか、規模感が中途半端だとかそういうご意見があります。

そこら辺で、今の現状、我々が考えている中身を十分理解できてないんだろうな、ということもありますので、我々しっかり、先ほど来からあります経済効果も含めて、市民県民の方にしっかりPRをして、こういうアリーナをぜひ岡山にということで、広報活動をしっかりやらないとイケないなと感じております。

皆様のご協力のもと、これからいろいろ詰めていくこともあるかと思っておりますので、引き続きご協力よろしく願います。

【大森座長】

はい。岡崎さん願います。

【岡崎氏】

岡山経済同友会の岡崎でございます。今回は野田委員長の代理で出席をさせていただいております。

アリーナができるという、作るということでもう方向が完全にいきましたけども、この事業費が非常に大き

な数字のものですから、当然ながらいろんな目で精査されてこの数字を出されていると思うんですが、もう1度、と言わず2、3度ぐらい検討していただいて、もう少し安いというか、安いからいいわけじゃないんでしょうけども、もう少し検討していただいて、もう一度数字を出していただきたいなと思っています。

それから、先ほど田口議長が、私が今日言おうかなと思っていること全部議長がおっしゃられたんで、あれなんですけど、やはり元々はトップチームが岡山にあり続けるためのアリーナだと思うんですよね。

残念ながら、今の成績だったら、本当にアリーナがいるのかという話だと思うんです。

ジップアリーナの1,500人を何とか何とか埋めることができる。近々でいうと、観客が800人ぐらいしか入らないということでありまして、そこら辺だったら、7、8年後にこれ作ったときに、やっぱり、いらなかったんじゃないかかっていうことになったときには、やはりここにいるメンバーの皆さんはある意味、非常に責任を問われると思いますんで、できるまでの間、7年8年かけて、どういったチームにしたいんかというところを、もう一度我々の方に示していただきたいなと思っています。

いずれにしても、立派なアリーナができたからって言って、観客の方がこられるのはやはり数回ですよ。そこに試合するチームが強くないと、地元の方は絶対応援にきませんので。例えば野球でもそうじゃないですか。広島とか阪神とか、強いからも皆さんこられますし、当然ファジアーノもそうですけども、やっぱりこう優勝争いしたり、いい試合するからこそ、そこにたくさん来るわけでありまして、残念ながら、どれだけでもいいかな、トライフープさんとシーガルズさん、どれだけ庇ってあげたとしても、今の成績で、本当に、5,000名、7,000名、8,000名を埋めることができるんですかということ、僕は、そこは覚悟を持っていただきたいと思います。

当然ながら、年間で、コンサートであったりいろんな興行もあろうかと思いますが、優先権はおそらく2チームが持たれていらっしゃると思うんで、その優先権あるチーム、2つの会社さんが、やっぱり少なくとも自分たちのホームゲームでは、精一杯、目一杯するんだ、あの時に思い切って大きな会場を作ってよかったなということを市民の方におっしゃっていただいて、いや、もっと大きいものを作った方がよかったんじゃないかと思われるようなチームづくりをしていただきたいということが、2チームにお願いであります。

それから、操車場の跡地も含めて、岡山ドームも含めた中でのあの広大なももとの跡地があらうかと思えますけど、この後の、例えば残っている駐車場であったり、その辺も今後、アリーナと岡山ドームとそれから空いてるそのスペースにどういったものを作るのがいいのか、広場がいいのか、スロープがいいのかそれはちょっとすぐには答えが出ませんが、その辺りを踏まえた中で、あわせてご検討いただきますようお願いをしたいと思います。

以上でございます。

【大森座長】

はい。ありがとうございます。

1点だけ私から。内容についてとやかく言う話は一切ないんですが、今回の出発点は、VリーグそしてBリーグの施設基準が変わったと。今のままでいくと、ジップアリーナでは両チームとも試合ができなくなる、という危機意識から入っているところでありまして、それはちょっと頭の中に置いていただきたいと思えます。

【岡崎氏】

それは理解しております。

【大森座長】

はい。それでは神崎さんお願いします。

【神崎氏】

岡山県経済団体連絡協議会の神崎と申します。

本日は具体的な概算事業費、またその採算性についてご説明いただきまして誠にありがとうございます。

これまで非常に長きに渡りまして検討して参りましたが、これまで長らく時代は、大量生産、大量消費という時代が続きましたが、やはりこれからは感動をいかに分かち合うか。先ほどお話も一部ありましたけれども、この感動をどうお金に変えるか、そこから採算性をどう出していくか、というのは非常に難しいんですけれども、この規模の予算を拝見して、なかなか厳しい数字だなと思っています。

しかし、そういった経済効果とか、実際に採算が合う、合わないというような表面的なものだけではない施設になり得ると私は期待をしています。

具体的に経済界として、いくら寄付を集めることができるかということは、本日の時点では申し上げることができませんが、こうしたアリーナは必要なんだということを強く思っています。

よろしくお願いします。

【大森座長】

はい。では高橋さんお願いします。

【高橋氏】

岡山商工会議所専務理事の高橋でございます。

今日は、道路の計画等、様々な計画についてご説明いただき、誠にありがとうございます。今までの検討、そして、市ご当局の様々な意見聴取の1つの成果ではないかなと、厚く御礼申し上げたいと思います。

その中で、今日、具体的な内容についてご説明があった。そして投資金額、それから運営事業費についてあり、そしてさらには、大森市長からですね、経済界への協力要請があったと私は受けとめさせていただきました。

今後、やはり金額をどうこうというよりも、まずは今日のお話をしっかりと、私ども岡山商工会議所の方々、そして経済会の方々にご説明申し上げて、これが本当に岡山の未来将来そして将来の子どもたちにとっても必要なんだ、そしてまた、これが岡山市がこれからさらに発展する、そして交流人口を増やすことによって、大きな都市機能を持つことによって、瀬戸内海の冠たる都市になるんだという、そういう夢といいましょうか、未来を、絵を、私どもとしても一緒に描きながら、皆さんにご説明をし、そして、どのようなご協力ができるのかについても、様々な意見を集約させていただきたいと思います。

最後に、私どもの勝手な思いであります、DXアリーナという、名前も仮にですがつけさせていただき、とにかく未来に向かって、何か発展できるような、そしてそれが岡山の発展に大きく寄与できるようなものにしたいという願いがあります。

それを実現できるように、私どもも努力してまいりたいと思います。ありがとうございました。

【大森座長】

ありがとうございました。では森さんお願いします。

【森氏】

失礼します。委員長の延原の代理で出席しております副会頭の森でございます。本日は大変貴重な時間をいただきありがとうございます。

2点。1点目、北長瀬は、私、大安寺高校だったんですけど、あの当時から思い返しますと、もう何にもなかった田んぼからどんどん住宅地ができて、あの周辺、若い世代の皆さんがどんどんとマンションに移住されています。たくさん的人口があるエリアだと承知しておりますけども、そのこのゲートウェイとしては、北長瀬の駅あたりに素晴らしい公園がありますと。ドームがありますと。そこにアリーナができる。

ぜひこれ、運営をしていくことを考えますと、アリーナ単体ではなかなかやはりそこを黒字化していくのは難しいけれども、●●●、他県のいろんな先行事例を見ますと、いろんな合わせ技、高齢者施設だったりホテルだったりコンベンションだったり、いろんな施設と一緒に作って、トータルでそのまちの活性化と経済状況をしっかり回して、いい効果を上げている例がありますので、その先行事例を参考に、北長瀬一体化の開発をぜひ、今後意図して計画を進めていただければ、多分運営を任される会社もすごくやりやすくなるんじゃないかなと思います。できれば、スタジアムが近くにあるととってもファジアーノの関係者としてうれしいですけど、ご検討いただけると嬉しいと思います。

2点目。本体工事について私もいろいろ調べてみて、いろいろ安く作る方法もあるように聞いておりますが、ただ土地柄なかなか難しいというご意見もあつたりで、よくわかりませんが、今回、頑張ってみ積もりをいただいている会社以外にも多分いくつか、いろんな工法だったりラインだったり、ひよっとするともうちょっと安くしてくれるのかもしれないし、そういった辺りもしっかりご検討いただいて、トータルの本体工事のところいかに落とせるかということもぜひ、お考えいただければ、全体としては楽になるんじゃないかと思っております。

以上です。

【大森座長】

では高谷さんお願いします。

【高谷氏】

はい。失礼します。岡山商工会議所の高谷でございます。

今日市長から、このサイズ感、それからまた、事業費についてのご説明をいただきまして本当にありがとうございました。

少し話が長くなるかもしれませんが、今回当会議所で委員会があるんですが、いろいろ委員の皆様、いろいろ、最初、当局から出た大体5,000人ぐらいのアリーナということがベースでありました。

スポーツ団体の皆さんのレギュレーションからするとそれで合うんだと思いますが、経済界、といっても会議所の中での議論、いろんなご意見が出る中で、中途半端じゃないかという意見が一番多かったんですね。それと比べたのがちょうど今、オープンする香川が1万人ということで、実は今回アンケートにも出ておりますように、市民の皆さん、一般の皆さんの期待というのはもちろんスポーツもあるんですが、コンサートであり、今回特に会議所もですね、MICEというのをずっと言ってきました。学会とか、人が集まる場所というのは、分科会で分かれて何とか1万人規模できるということなんですが、一番問題な展示会ができない、ということでもあります。

そういう部分で、今回収支見込みにも書いておりますようにイベントとかもあるんですが、経済界としても、これができることによって、トラックが入りますんで、例えば当業界が、おもちゃ業界なんで、東京おもちゃショーはできないにしろ、そういう展示会ができるというのも、これ岡山経済、中四国の経済にとって大きなことだと理解をしております。

そういうトータルの部分で、今回、市長からありましたように 1 万人規模ということになってきたと思います。

これ本当に大変ありがたいことなんですが、いよいよこれ各論に入ったときに、今日市長からもお話がありましたように、この企業版ふるさと納税を含むということで、いよいよこれから、今日お集まりのスポーツ団体の皆さん、大学の皆さん、それから、特にこの岡山商工会議所中心窓口にはなっていますが、これあくまでも岡山市の方は企業版ふるさと納税使えませんので、寄付金になると思いますが、これはこの施設は岡山市だけのものではなくて、岡山県、もっと言えば、中四国のやっぱり宝にしていく中で、これから時間があまりありませんが、今日お集まりの神崎さん、経済連合会の岡崎さん含め、それから経済同友会の皆さんも含め、この各団体にきちっと説明、また、岡山商工会議所も、県下に 18 あります。

皆さん、会長を含めて、今少しずつ、松田会頭を中心にお願いに回っておりますが、さらに皆様のご協力をいただきながら、加速をしていかないと、各論にいよいよ入ったわけであって、必要だということについては多分皆さん、ほぼ、反対の方もいらっしゃるの理解をしておりますが、各論に入って、やはりお金が足りないからできないということじゃなくて、みんなで力を合わせて、少しでも、このアリーナ建設に向けて、帆を進めていければというふうに思っておりますんで、何か少し変な言い方かもしれませんが、経済団体の皆さんと勉強して頑張っていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

以上です。

【大森座長】

松田会頭もう一回よろしいでしょうか。

【松田副座長】

いろんな角度からご意見をいただきまして、大変今後の活動に参考になるご意見でございました。

いくつかの岡山市に本拠地を置かない企業に当たって参っておりますけれども、その物の言い方っていうのは、確かに今日林先生がおっしゃったように、投資の観点からじゃなくて、単なるお願いしていたなということを反省しています。

これが例えば、こういった施設を使ってその企業にとって、投資としてやれるかどうかという観点でもう一度、議論を組み立てていきたいと考えて、今皆さんの意見を聞いておりました。多方面にわたって本当にご意見いただいたことありがたいと思います。

今 13 歳の子どもがちょうど 7 年経つと成人という、そんな時間の経過の中でできていく岡山の施設でございまして、従ってその時を想像して、その時になっても最先端である施設であって欲しいと。そのために、投資の価値があるんだということが、他の県に所在地を置く企業の方々から見ても、岡山を本拠地にやっていきたいというストーリーを、また練り直していきたいと今、考え直しております。

今日お集まりになりました皆さん方、4 回目でございますけれども、この検討委員会がこの後あるかどうか知りませんが、ぜひ引き続き皆さん方のご意見を頂戴しながら、話を進めていきたいというふうに考えておりますので、何卒よろしくご協力をお願いします。

ありがとうございます。

【大森座長】

私からも2点、お話しさせていただきたいと思います。

まず1点は、林さんおっしゃった投資効果、これ代表的なのが今ハレノワやったばかりなんですよ。例えば、ハレノワメンバーズってご存じでしょうか。ここに入っている方おられますか。入っていない。いや、2人だけ。登録者が1万人をこえているんですけど、要はあそこの催し物が事前にわかるんですよ。早め。ということで、ハレノワに行きやすくなる。ミュージカル何があるとかね、オペラ何やるっていうのがわかる。その登録者の2割を超えている人が県外なんですよ。となると、当然県外から多く来る。これが、例えば、奥田民生のコンサートやったときは、6割が県外であったわけです。例えばミュージカルでも2割3割というのは結構ある。

だから、そういう効果とともに表町に新しい施設が、結構飲食ができています。この1年間で20件近くの飲食ができていることが確認されています。そして、イオンから表町に行くハレマチ通り、これ休日は4割増の交通量になっている。これが三浦さんのおっしゃっている経済効果、そして社会効果ということなんだろうと思います。

そういった例を引きながら、この280億の投資がどういう効果を産んでいくのかっていうのは、当然ながら、ある程度の数字が出ていこうと思いますんで、そこはさせていただきたいなというように思います。これが1点です。

もう1点少し気になったのは、私もローコストアリーナの話は最初からあって、ただ、事務局とコンサルの間での話の中で、ローコストアリーナはそこでは、これだけの規模になると難しい、という話が入ってきました。事務局も完全にわかっているわけじゃないんで、それ以上の議論をしていないところがあるんです。

今日は森さんにしろ、岡崎さんにしろ、もうちょっと安くできないかと言うことをおっしゃっている。これ、経済界と我々との間で、その作り方において齟齬があると、これからもまずいと思うんですよ。そこは、岩田局長以下、事務局の方も随分、ローコストアリーナで動いていましたから、そこを1回整理してもらったらいんじゃないかなと思います。そこがお互い疑心暗鬼のままだと、少しおかしくなるんじゃないかなという感じをしたところであります。

以上でありますけれども、様々、全員が前向きな意見を言っていたと私は思っております。

経済界からの、これからのあり方についてもご議論をいただき、ご提示をいただいて、我々も、来年度の予算について前向きに動きたい、というように思っているところであります。またそれらの点については各委員の皆さん方に、別途お知らせをします。

多分、予算の決定までにこの会を開くのは時間的にもう難しいんじゃないかなと思っていますので、実際はそのあとになるでしょ。次の会議。

【事務局】

はい。

【大森座長】

わかりました。とりあえず、1月の段階で我々、次の予算でどういう対応をとるかというのは、各委員の皆さん方にはご連絡を差し上げたいと思います。

それでは、各自、一通り意見が出ましたけれども、何か追加しての意見、質問ございましたらお願いいたします。よろしいですか。

では事務局にマイクをお返しします。

【事務局】

ありがとうございました。

次回の開催につきましては日程等が決まり次第ご案内いたします。

以上をもちまして第4回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

本日はありがとうございました。